

ごみ処理基本計画（第5期）の実績について

1. 数値目標

	H25年度 (基準年)	H26年度 実績	H27年度 実績	H28年度 実績	H29年度 実績	計画目標 (2024年度)
ごみ総排出量	175,676t	174,654t	177,021t	173,131t	172,827t	151,000t
燃やすごみ量	137,504t	139,124t	140,590t	137,734t	135,300t	106,000t
資源化率	11.7%	10.7%	10.9%	11.0%	11.7%	26%

2. 基本方針と主な施策の実施状況

基本方針1 市民・事業者との協働によるごみの減量

- 市民・事業者が積極的にごみの減量化に取り組み、環境負荷の低減やごみ処理費用の削減を図るための施策を計画的に推進する。
- 施策① 家庭ごみの有料化の導入を検討（新規）
 - ・平成30年2月から、指定ごみ袋による家庭ごみ収集制度及び市廃棄物処理施設への搬入手数料の改定を実施
 - 施策② 生ごみ・紙ごみの減量化を促進（拡充）
 - ・古紙集団回収登録団体 H27:120団体 → H30:151団体
 - ・多量排出事業者へ立入指導 219件 (H27~30)
 - ・ダンボールコンポスト等による生ごみリサイクル循環システムを推進
ベジタくる一ん堆肥回収量 H27:1,572kg → H30:3,307kg
 - ・平成30年度からフードドライブ事業等の食品ロス対策を実施
 - 施策③ ごみの減量に取り組む人材の育成や市民団体、事業者等への支援（拡充）
 - ・グリーンコンシューマー養成講座を開催 26回 (H27~30)
 - ・平成30年度 商店街エコショップマップを作成
 - ・食品衛生責任者講習会等で飲食店経営者等へ啓発を実施 25回 参加3,490人
 - ・校下婦人会によるダンボールコンポストの普及啓発 説明会42回 (H27~30)
 - 施策④ 容器包装廃棄物などの減量（継続）
 - ・「環境にやさしい買い物推進店 H27:346店舗 → H30:424店舗
 - 施策⑤ 環境教育・普及啓発の充実（拡充）
 - ・ごみの分別等について出前講座を実施 448回 (H27~30)
 - ・かなざわエコフェスタを開催 (H28~30)
 - ・「かなざわ学校エコプロジェクト」参加校数の拡大 H27:22校 → H30:38校

基本方針2 分別の徹底と再使用、再生利用の促進

- これまで市が率先して行ってきた資源化施策に加え、民間事業者との連携により、資源化率の向上を図る。
- 施策⑥ 事業者との役割分担による資源回収ルート確保（新規）
 - ・スチーマーくるステーション店舗数 H27:10店舗 → H30:22店舗
 - ・平成29年7月から湊市民センター横に資源搬入ステーションを開設
 - 施策⑦ 市民・事業者への情報提供と指導の徹底（拡充）
 - ・H29年度にスマートフォンアプリ「5374App」を提供開始
登録者数H29:19,100人 → H30:32,095人
 - ・東西環境エネルギーセンターで収集車両の内容物調査を実施
調査回数:29回 指導件数:74件 (H27~30)

基本方針3 適正で効率的なごみ処理体制の再構築

- ごみの発生量や性状に合わせた適正で効率的な収集・運搬・処理体制の再構築を図り、将来を見据えた施設整備を促進する。
- 施策⑧ 将来を見据えた収集体制や施設整備の推進（新規）
 - ・平成30年度から「要援護者ごみ出しサポート事業」を開始
 - ・次期廃棄物埋立場建設工事を継続
 - 施策⑨ 不法投棄防止対策等の強化とルール違反ごみの撲滅（拡充）
 - ・不適正処理行為者への指導を実施 指導件数:211件 (H27~30)
 - ・不法投棄監視パトロール員による巡回監視を実施
不法投棄回収実績:1401件 33.8t
 - ・「全国ごみ不法投棄監視ウィーク」に合わせ、街頭キャンペーン等を実施
 - ・警察と協働で金属類持ち去り行為者の取り締りを実施 検挙16件
 - 施策⑩ 災害時のごみ処理体制の整備（拡充）
 - ・平成28年3月 「金沢市災害廃棄物処理計画」を策定

基本方針4 地球温暖化対策の強化

- 廃棄物処理システムの改善による創エネルギーや省エネルギーの取り組みを進め、地球温暖化対策を強化する。
- 施策⑪ 廃棄物バイオマスの活用（新規）
 - ・林地残材を燃やすごみと一緒に焼却
 - 施策⑫ ごみ処理における温室効果ガスの削減（拡充）
 - ・金沢市地球温暖化対策実行計画2016に基づき、各職場でごみの分別や省エネの徹底を実施
 - ・民間の廃棄物焼却施設に小型発電機の設置を推進 新規2台設置